

ENVI5.5 SP3 新機能紹介

HARRIS GEOSPATIAL株式会社

ENVI5.5 SP3の新機能



- サポートOS・データフォーマットの追加
- 機能追加
- 機能向上
 - Annotation
 - パワーポイントテンプレート
 - Feature Counting
- APIの追加
 - ENVITaskとルーチンの追加

■ Operating System Support

- Windows 10 (64bitのみ対応)
- Linux Kernel 3.10.0以上, glibc 2.17以上
- Mac OS X Mojave(10.14), Catalina(10.15)

※64bit OSのみの対応

※Linuxのサポートカーネルバージョンの更新

■ ArcGIS との連携

- ArcGISPro 2.3/2.4 と ArcMap10.7をサポート

■ サポートデータフォーマット

- Göktürk-1 (トルコ)
 - パンクロ画像 0.7m / マルチスペクトル画像 2.8m
- PRISMA (イタリア)
 - パンクロ画像 5m / ハイパースペクトル画像 30m
 - VNIR66バンド / SWIR171バンド
- NITF の CSSHPB Data Expansion Segment

■ ENVIインターフェースへの機能追加

● プロパティ表示

- ENVIツールボックス下にプロパティ表示領域が設定されました。アノテーションやベクタなどのプロパティはここで変更可能です。

● Scroll View

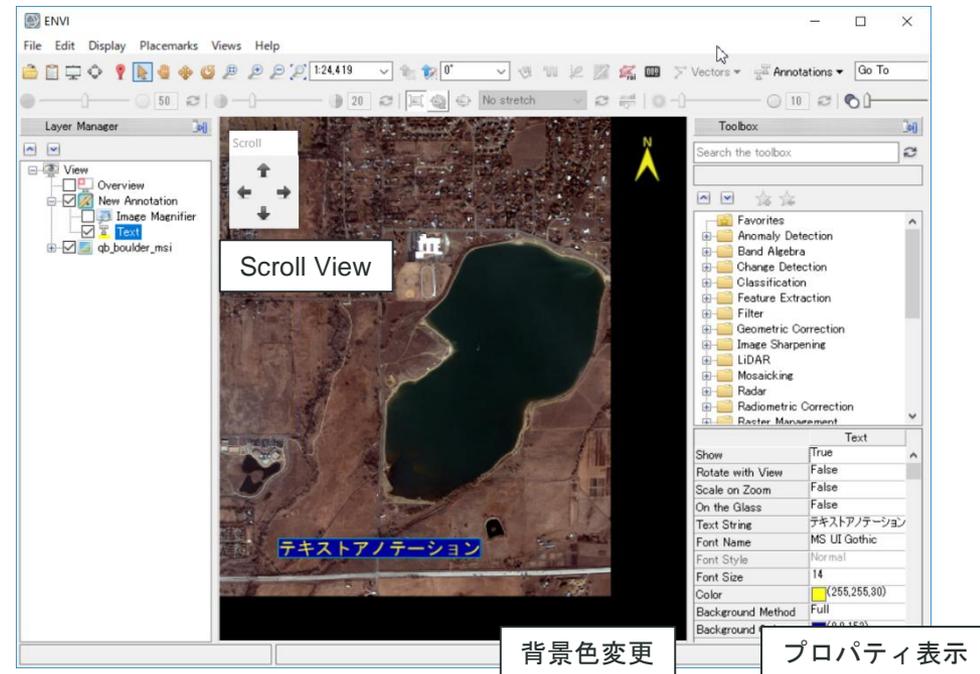
- ツールバーにアイコンを追加。View画面を上下左右に一画面分ずつステップ移動可能

● ENVIView背景色の変更

- レイヤマネージャのViewの右クリックメニューでENVIView背景色の変更可能

● Quick Mosaic

- レイヤマネージャのViewの右クリックメニューで表示画像の簡易モザイク可能



ENVIの新インターフェース

- Thematic Change ツール
 - 2時期の分類画像の差分を識別するツールです。
- Convert Interleave ツール
 - ラスタのインターリーブを変換するツールです。
- Reproject Vector ツール
 - ベクタファイルの座標系を別の座標系に再投影するツールです。
- Build Band Stack ツール
 - 同一サイズの異なるラスタを統合し、新しいファイルを構築できます。地理参照は必要ありません。
- Cast Raster Data Type ツール
 - ラスタのデータ型を変更できます。
- ROIツールの機能追加
 - GeoJSON のインポートとエクスポート
 - ASCIIデータのインポート
- Layer Stacking ツールが Build Layer Stack にツール名称変更

■ Annotation ツール

- テキストのデフォルト色とスタイル変更
- Background Fill 設定はBackground Method 設定に変更
 - None、Full、Outlineの選択が可能
- 画像拡大アノテーション機能追加
 - Annotationリストから選択、ビューで指定した領域の拡大ウィンドウが表示
- ユーザ定義のクラス名・色で凡例を作成可能
 - 分類ファイルからクラス名・色をインポート可能



画像拡大アノテーションツール

■ Annotation ツール

- 複数のアノテーションの共通プロパティを同時変更可能
 - 複数アノテーションを選択すると右下に共通プロパティ項目のみ表示
- Shiftキーで矢印アノテーションを45度ずつ回転可能
- 方位記号の透過度はPreferencesで変更可能
- Picture Annotation
 - 任意のバンド数のラスタ選択可能
 - 選択時、空間・スペクトルサブセット可能
 - バイト型以外の場合2%の線形ストレッチ適用
 - PNGのアルファチャンネルがされる
 - アスペクト比は固定
 - ENVIのプロット図からアノテーション作成可能

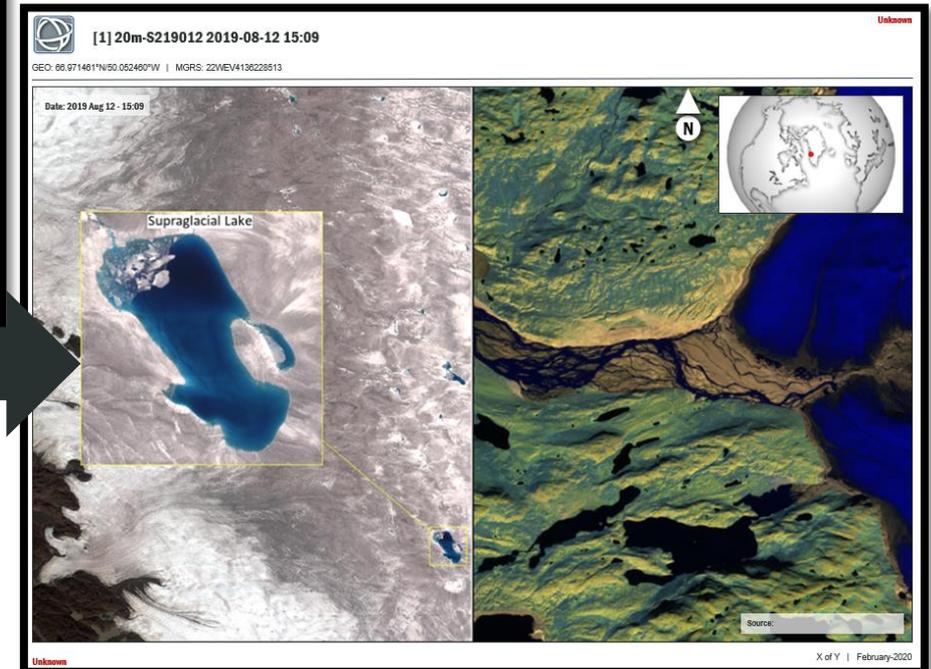
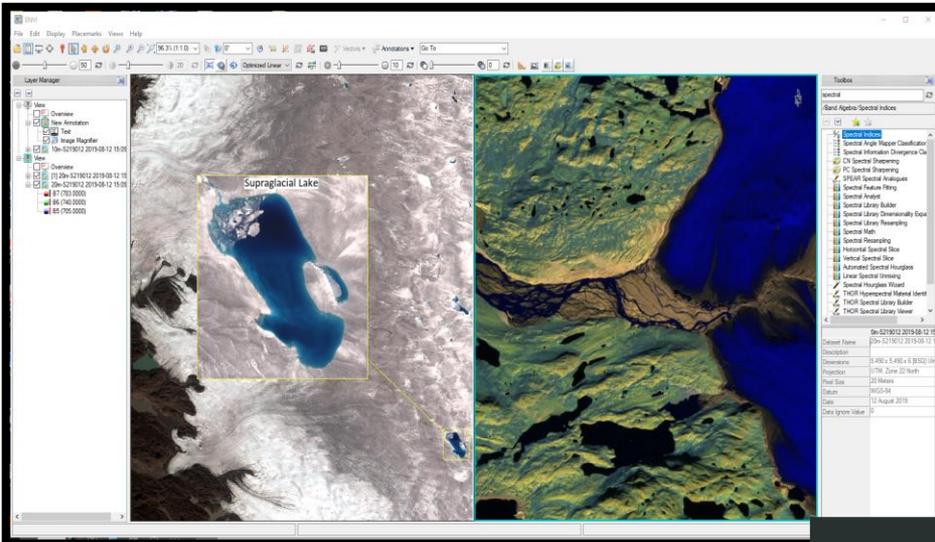


複数アノテーションを一括変更

機能向上

■ パワーポイントテンプレート

- 複数Viewを同時にパワーポイントに貼り付け可能
- 6種類のテンプレートテーマから選択可能



■ Feature Counting ツール

- デフォルトカラーとスタイルの変更
- テキスト塗り潰しプロパティが追加
- File > Open からENVIフィーチャカウンティングファイル(.efc形式) を選択して読み込み可能
- フィーチャカウントを.xml 形式でROIに保存可能
- フィーチャグループの作成順に沿って該当する数字キー(1~9)によるポイントングが可能
- Vector to Feature Count ツールでベクタレコードをフィーチャカウントレイヤに変換可能

■ ENVITaskとルーチンの追加

- 以下のENVI Taskが追加されました。
 - ENVIASCIIToROITask
 - ENVIASCIIToVectorTask
 - ENVIConvertInterleaveTask
 - ENVIExtractGeoJSONFromFileTask
 - ENVIGenerateMaskFromVectorTask
 - ENVIREprojectVectorTask
 - ENVIROIToGeoJSONTask
 - ENVIVectorToFeatureCountTask
- 以下のルーチンとメソッドが追加されました。
 - ENVIFeatureCount
 - ENVITime::GetString

■ その他のアップデート

- 新しい空のENVISpectralLibraryオブジェクト作成と、スペクトルライブラリファイルを復元できません。
 - AddSpectraおよびRemoveSpectraメソッドもENVISpectralLibraryに追加されました。
- 新しいUI APIクラス
 - ENVIFeatureCount_UI
 - ENVIGCPSet_UI
 - ENVITiePointSet_UI

お問い合わせ



Harris Geospatial株式会社
技術サポート

03-6801-6147 (東京)

06-6441-0019 (大阪)

support_jp@L3Harris.com